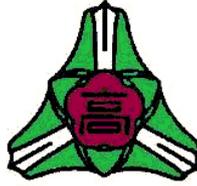


平成28年度



学校評価



秋田県立雄勝高等学校

【学校評議員】

菅 義雄（元町長）

戸部 尚武（横堀地域づくり協議会会長）

小野垣昭治（前PTA会長）

高橋 讓（PTA会長）

平成28年度学校評価

評価領域	1年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 学習習慣と基礎学力の定着 (3) お互いに信頼し合える人間関係の構築 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) あいさつ・整理整頓は概ねできているが、整容面・時間を守ること・ルール・マナーについて身につけていない生徒がいる。 (2) 家庭での学習習慣や基礎学力が身につけていない生徒が多い。 (3) コミュニケーション力が身につけておらず、勘違いや思い込みなどによるすれ違いが、生徒の間に見られる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) きちんとした身だしなみ・適切な言葉遣いを身につけさせ、私物の管理・提出物の期限厳守を徹底させる。 (2) 毎日の授業に集中して臨ませ、苦手なことにも最後まで取り組ませる。 (3) お互いを認め合い、良好な人間関係を築かせる。また、集団における自分の役割をきちんと理解させ遂行させる。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業・HR活動・学年集会・課外活動をとおり、生徒個々の課題について個別指導する。 (2) 授業・課題の提出・定期考査への取り組みを、学習サポーターの協力を得ながら指導する。 (3) 学校生活でのこまめな声かけ・個人面談をとおして指導する。また、クラスや各種行事での役割とその内容を明確化し、実行させる。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 少人数を生かし、生徒個々の課題（学習面・生活面・人間関係・問題行動など）に対応した指導を行っている。 (2) 学力不足の生徒に対し、授業・放課後補習で学習サポーターの協力を得ながら指導している。 (3) こまめな声かけや個人面談による指導を行っており、クラスでの係の仕事などの役割を実行させている。 	D
達成状況	概ね改善されてきているが、学習面や人間関係で問題を抱える生徒が複数いる。	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	個別指導を中心にそれぞれの課題に対応しているが、指導にのらない生徒や人間関係の改善がなされていない生徒がいること、定期考査に向けての家庭学習時間が不足している生徒が多いことなどが今後の課題として残っている。	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	授業参観では英語の授業で3名の先生が細やかに丁寧に教えていた。少人数であることを生かせる授業が展開されていた。また勉強ばかりではなく人間性を鍛えることも大切であり、学校行事における1人3役は素晴らしい活動である。 補習などで苦手な科目を教えてもらえることはいいことである。どれだけ学力がついたか、比較できるようなデータがあればよい。社会に出てからは人間関係が最も大事である。それを構築できる力をつけさせてほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	少人数を生かしたきめ細かな指導については今後も継続し、特に人間性の育成に力を入れていきたい。また、生徒の学力については、データを検証し、どれだけ身につけさせることができたかをチェックしながら、個別の課題に対しての指導に取り組みたい。また、データだけではなく、一般社会で通用する教養も身につけさせていきたい。	A
-----------------------	---	---

評価領域	2年部
------	-----

重点目標	<p>(1) 規律ある生活習慣を確立させ、望ましい人間関係の構築を図り、豊かな人間性の醸成を目指す。</p> <p>(2) 自ら学び行動する学習態度の育成と基礎学力の定着を図る。</p> <p>(3) 自らの望ましい進路実現に向けての意識を向上させる。</p>	P
現 状	<p>(1) 整容は概ね良好である。2年生としての自覚のもと行動できるようになった。</p> <p>(2) 「自分なりに」「できるだけ」勉強している程度の生徒が多く、まだまだ学習不足である。</p> <p>(3) CLの進路学習やインターンシップを通し、将来に向けての目標が見えてきた生徒がほとんどである。</p>	
具体的な目標	<p>(1) ①保護者との連携を密にし、無断欠席の防止、明るい挨拶、正しい整容、ベル着、提出期限の厳守、私物の管理等を徹底させる。</p> <p>②授業や行事など様々な場面をとおり、自ら考え行動し、他人を思いやる心を育み、品性の陶冶を図らせる。</p> <p>(2) ①授業に集中して取り組ませ、家庭での学習習慣をつけさせる。</p> <p>②朝学習等で読書の習慣を身に付けさせ、補習などを通し、全体的に学習成績のレベルアップを図る。</p> <p>(3) ①LHR、総合的な学習の時間、面談などをとおり、生徒が主体的に進路学習できるようにさせる。</p> <p>②積極的にボランティア活動に参加させることで、職業観を育成させるとともに、地域住民との交流をとおり、コミュニケーション能力を養成させる。</p>	
目標達成のための方策	<p>(1) 毎日の学校生活やインターンシップ等を通して指導する。</p> <p>(2) 課題提出や定期考査への取り組みを通して指導する。</p> <p>(3) クラス活動や学校行事を通して指導する。</p>	
具体的な取組状況	<p>(1) 授業やLHR、面談、学年集会などの機会を捉え、指導してきた。一部生徒を除き、自己管理ができるようになった。</p> <p>(2) 学業に向かう志が低い生徒もいるが、課題をこなせる生徒が多くなった。</p> <p>(3) インターンシップや進路学習をとおり、職業観が育成され、自ら進んでボランティア活動に何度も参加する生徒も増えた。</p>	D
達成状況	おおむね良好	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	一部、ルールを守れない生徒もいるが、インターンシップや、修学旅行などの経験をおし、進路意識が向上し、比較的まじめに学習に取り組む生徒がほとんどであり、次の最上級生という自覚を持つようになった。	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のボランティア活動が盛んであり、大きな力となっており、地域住民から感謝され好評である。今後も積極的により多くの生徒を参加させてほしい。 地域連携に参加する生徒は積極的で人懐こく、指示通りに取り組んでいる。少人数体制はうらやましい環境であり、卒業後も後悔のないように、自ら進んで学習する意欲を育てる指導をしてほしい。 P T Aに参加できない保護者も高校に感謝している。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> これからもボランティア活動を奨励し、地元に貢献させることで、自己有用感を構築させ、地域に愛される人材の育成に励みたい。 少人数体制の強みを活かし、生徒の望ましい進路実現に向かって、職員一丸となって最後まで熱意を持ち、丁寧な指導をしていきたい。 	A
-----------------------	--	---

評価領域	3年部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 社会人として必要な生活習慣の確立 (2) 進路に応じた学力の向上 (3) 希望進路の実現 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) 整容面に関しては、概ね良好であり、挨拶・言葉遣い・私物の管理について指導している。 (2) 授業や課題提出だけでなく、進路実現に向けた就職基礎ドリルの学習、面接練習に取り組んでいる。 (3) 担任や就職支援員との面談を通して進路希望を明確にし、その実現に向けて一人ひとり課題に取り組んでいる。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) ①身だしなみ・挨拶・言葉遣い・私物管理の習慣を徹底させる ②自ら考え、判断する能力を身につけさせる (2) ①自分の目標に向けて、自主・自発的に学習させる ②社会人として必要な知識を習得させる (3) ①自己の適性を理解させ、進路実現を達成させる ②目標に向かって最後まで粘り強く取り組ませる 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日常の指導を通して、身につけさせる。 (2) 一般常識チェックテストなどを活用し、必要な知識を身につけさせる。 (3) 各種模試、面接をとおして、自己の能力を把握させる。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ・挨拶・言葉遣いについては職員室内での各種許可願いの際に指導した。 (2) 就職基礎ドリルの解答を配布し、自学自習させた。 (3) 夏期冬期補習では計画的な学習指導、面接指導を行った。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ・挨拶・言葉遣い・私物管理などの社会性は、向上している。今後も新社会人準備講座、租税教室等で指導する。 (2、3) 就職希望者は10月に全員の内定が決定し、残すは看護系進学希望者の合否通知待ちである。 	



自己評価	(評価) A	(根拠) 各種許可願いの応答に社会性の向上が見られる。問題行動は一切なく、落ち着きある学校生活を継続している。 進路決定のための学習指導、面接指導は計画的実施され、就職希望者全員の進路は早期に決定している。 看護系進学希望者については年明けから補習を継続し、志望先の受験も終わり、現在可否通知待ちである。	C
------	-----------	--	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 高橋委員から進路実績が高いと評価された。 戸部委員から日頃の取り組みが100%の就職実現に結びついている。まだ未決定の看護系進学者1名に対する学校全体の指導も評価された。	C
------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	面接指導については、PTAの協力を仰ぐ事も大切である。教員以外の方が試験官をすることで緊張感が増し、良い刺激が得られる。		A
-----------------------	--	--	---

評価領域	総務部
------	-----

重点目標	(1) 儀式・行事等の円滑な運営と実施 (2) PTA活動の充実	P
現 状	(1) 儀式・行事等は職員の協力的な取り組みにより、滞りなく円滑に実施できている。 (2) PTA 総会には25名の保護者の参加(約30%)。その他にも運動会や文化祭などの学校行事に予想以上の保護者が来校している。	
具体的な目標	①校内各分掌との連携を深める。 ②保護者との連携を図り、PTA や諸活動への参加率向上に努める。 ③地域や校外諸団体との連携を深め、広報活動を推進する。	
目標達成のための方策	(1) 情報の共有を徹底し、少ない人員でも準備と遂行を円滑なものにする。 (2) 「eメッセージ」を活用した情報発信の機会を工夫する。 (3) PTAや各種団体との情報をやり取りし連携強化を図る。	
具体的な取組状況	(1) 各行事の実施については、特に定例職員会議以降に出された行事について、計画の周知を徹底するために、実施要綱を全職員に確実に届けてもらうように協力をお願いした。 (2) 緊急性のある事例では、台風の影響のため生徒の帰宅時間を繰り上げた際に、eメッセージを利用して保護者にも連絡した。 (3) PTAに関する案内は、1ヶ月以上前に通知するように心掛けた。	
達成状況	諸行事の取り組みについては、情報共有をより確実にすることで、慣例で行ってきた中で取りこぼした所を少しは補えたように思う。 異状気象に迅速に対応するためにもeメッセージは有効であった。 PTAに関する案内で、年度の中旬以降の行事には余裕を持って通知できるが、年度の始まりに行われる「PTA 総会」の案内についてはまだ改善の余地がある。	D



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<p>今年度は、特に技師への行事等に関する通知をしっかりと伝えたことで、準備段階で落ち度が少なくなり行事を円滑に実施することができた。</p> <p>文科省からは、災害時における生徒の保護者への引き渡しまで考慮するよう指示があることから、緊急時の生徒への指示内容を保護者にも通知する必要があるがあった。</p> <p>学校祭の協力依頼を早めに通知したお陰で、保護者からの要望を知ることができ、準備と作業が改善された。</p>	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・同じことを何回も繰り返すよりは、PTAの案内の仕方についてなど、工夫しながら違った方法を試すことは保護者への刺激になってよい。 ・様々な点で改善がなされている。PTAは高い出席率であった。また勝高祭は悪天候でありながら非常に多くの保護者や卒業生が来校して活気に満ちていた。学校に対する愛着があるから卒業生がやってくるのであると思う。これから卒業する生徒に対しても、「いつでも学校に来いよ」と声かけをお願いしたい。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>・「保護者アンケートで 84.6 %の保護者が本校に入学させて良かったと回答している反面、21.4 %の保護者が保護者と教師の連携が深まっていないと回答している。これはどういうことか？」というご意見があった。保護者の求める「教師の連携」とは何かを調査し、具体的な方策を立てて改善に努めたい。</p>	A
-----------------------	--	---

評価領域	教務部
------	-----

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に確かな学力を身に付けさせる。 (2) 学校の将来像を見据えた教育課程の編成を研究をする。 (3) 教務関係事項を安定的に遂行する。 	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の実情・現状を把握し、学力向上に向け、生徒個々の問題に対応できる体制を整えている。また学力向上に向け授業改善に取り組んでいる。 (2) 中期ビジョンを元に新しい学校像を見据え、生徒の可能性をのばすことの出来る教育課程について議論が必要である。 (3) 教務関係の業務は順調に遂行されている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎的な学力の養成 (2) 本校生に必要とされる基礎基本の充実と進路実現を目指した教育課程の検討と編成 (3) 学習環境の整備 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 習熟度別授業、少人数授業の工夫、 (2) 主任会議等で各教科との連携を図る (3) 欠点克服のための指導の充実 授業時数の確保と調整 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 習熟度別授業、少人数授業など、生徒の実態に即した授業展開に心がけている、目標達成に向け学力向上に努めている。 (2) 本校の未来像を踏まえ、生徒の教育活動を見据えた新教育課程を主任会議等で議論を深めている。 (3) 日々の業務を教務部員が協力し合い運営している。 	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各教員が各々に授業改善に日々工夫を凝らしている。 (2) 地域校化を見据えた新教育課程の原案を作成できた。 (3) 生徒が自分で選択した系統で自己の目標実現に向けた学習活動の環境が整えられている。 	

自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	適切な業務分担をとおり、円滑に業務が遂行されている。教育課程についても、可能な限り生徒の選択肢を維持し編成され、各教科、各学年と連携し生徒の学力向上につながっている。また課題であった新教育課程の編成についても研究が深められ原案を作ることができた。しかし今後の学校実態の変化に即した研究と改善が必要である。	

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	個々の問題に対応できるような工夫がなされている様子がわかる。保護者アンケートでは83%の保護者が「生徒の意欲をより高める指導をしている」と回答しており、一人一人の生徒に対応した指導をしていると評価できる。「塾に通わせても成績は伸びない、むしろ家庭教師の方がよい」とある本に書かれていた。少人数の生徒に対して複数教員による、他校ではできない指導によって、一人一人の生徒を見てもらえれば、今以上に良くなる。子供たち一人一人にもっと積極的な声かけをお願いしたい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	日頃の学習環境の整備には部員一同しっかりと取り組み引き続き潤滑な運営に心がけていきたい。教育課程及び各種取り組みについては今後の学校環境の変化を踏まえ、可能な限り生徒たちにとって進路実現が実現できる環境を作れるよう、引き続き研究していかなくてはならない。	A
-----------------------	---	---

評価領域	生徒指導部
------	-------

重点目標	(1) 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める。	P
現 状	全体的にしっかりと学校生活を送ることができている。 問題の兆候がないわけではないが、担任・学年部を中心とした早期の対応が現在の状況に結びついている。また、生徒も注意や指導を素直に受け入れてくれている。今後さらに向上させるためにも、日々の生活の中で生徒一人一人に対して温度差なく粘り強く取り組む必要がある。	
具体的な目標	①整容指導の充実 ②生徒の私物の管理の徹底 ③携帯電話に関する指導の充実	
目標達成のための方策	①生徒相互が整容の乱れに気づくことができるように服装や頭髪の指導を充実させる。 ②私物の持ち帰りや学校へ必要ない物を持ち込まない指導の徹底 ③携帯電話の指導を早期に徹底することにより、生徒が事故等に巻き込まれないようにしていく。	
具体的な取組状況	①各学期の初めに全校一斉に「整容検査」を行っている。また、日常的には学年部を中心に指導に当たっている。 ②担任を中心に私物管理（持ち帰り）を徹底させている。また、各校時ごとに担当者を決めて、校内巡視を行っている。 ③全校集会等でSNS問題事例やその危険性について生徒に話している。また、校内での一切の使用を禁止している。	D
達成状況	いずれも達成状況は良好であるが、2学期、2件の問題行動で4名の停学者を出した。	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	目標に関しては、概ね達成できていると思われる。やや行動に問題のある生徒がいたが、組織的に指導を継続してきた。生徒に問題が発生した際の迅速かつ適切な対処を今後も心がけていきたい。	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(根拠)	C
	B	<p>基本的な生活態度は卒業後も大事であるので、これまで同様の指導をお願いしたい。</p> <p>職場においても社員の指導は難しい。高校時代に様々な体験をした人ほど元気でめげない傾向にある。家庭における基本的な生活指導が不足している場合もあるので、PTA等で保護者に遠慮なく言ってほしい。息の長い指導をすれば生徒は良い方に育つ。</p>	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立のためにも、生徒指導部だけでなく教職員が一丸となり、生徒の目線に立った指導を心がける。 ・ 現状に満足することなく常に危機感を持ち、職員間、学年間でばらつきのない指導を継続させる。 	A
-----------------------	--	---

評価領域	特別活動部
------	-------

重点目標	(1) 心身の発達、個性の伸張、集団の一員としての資質を育む。 (2) 自主的・主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む。		P
現 状	(1) 個人差はあるものの、運動会、球技大会等の行事を通して、少しずつ醸成されているものと思われる。 (2) 例年通りボランティア活動への積極的な参加が見られる。今後、学校祭等で昨年以上の生徒減の影響を補う活躍ができるかが課題である。		
具体的な目標	(1) 学校行事や生徒会活動、ボランティアに積極的に参加する態度の育成 (2) 部活動の活性化		
目標達成のための方策	(1) 生徒会や各委員会からの広報活動を活発に行う。 (2) 各種学校行事等を通して、学校の代表としての自覚を促す。		
具体的な取組状況	(1) 教員側からの支援が必要な部分もあったが、生徒が意欲的に運営して、学校全体を盛り上げていこうとする雰囲気醸成していった。 (2) 例年どおりの活動を維持することができた。人数が少ない分、一人一人の責任が重くなり、自ら行動を起こす意識が養われた。		D
達成状況	(1) 生徒減の影響が懸念されたが、一人二役、三役の負担を行動と意識の改善で補い、例年並みの行事規模を維持できたのは収穫であった。 (2) 一人一人の活動範囲が増えた分、行動半径も広がり、多くの経験が人間的成長につながったと思われる。		
自己評価	(評価) B	(根拠) 生徒減という逆境が生かされ、生徒の成長につながったことは喜ばしいことであったが、依然、受け身で指示待ち状態の生徒も多い。前者の生徒の割合を増やしていくため、より工夫した指導が必要である。	C

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>(意見)</p> <p>ボランティアに多くの生徒が積極的に参加し、いろいろな場面で行事運営に貢献した。関係者、地域住民からたいへん好評であった。</p> <p>学校行事は生徒減の影響が懸念されたが、生徒の負担増が逆に成長を促した。</p> <p>ジュニアリーダーズキャンプは人間の内面を成長させる、とても貴重な体験であった。</p>	<p>C</p>
-------------------	----------------------	---	----------

<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>生徒減対応へ向け、学校行事の抜本的な改革。</p> <p>行事等で前向きに取り組めない生徒に苦慮しているが、どの世界にもいるタイプでなので、機を捉えた声掛けで引っ張ってほしい</p> <p>生徒減が予想される今後も、ボランティア、ジュニアリーダーズキャンプへの積極的な参加。</p>	<p>A</p>
------------------------------	--	----------

評価領域	進路指導部
------	-------

重点目標	将来の行き方・生活のしかたを考えさせ、主体的に自己の進路を決定させ、志望を達成させる。		P
現 状	多くの生徒はインターンシップ、進路ガイダンス、校外進学相談会などに積極的に参加することで、自分の進路目標を具体的にし、実現に結びつけている。一方、進路志望先を最後まで主体的に絞りきれない生徒も多くいる。また、基礎学力やコミュニケーション能力についても、学年が上がるにつれて向上はするものの、十分身につけていない生徒が多いのが現状である。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の人生設計や職業観・勤労観など望ましい生き方を確立させる。HR活動や総合的な学習の充実 ②学力向上のため、補習授業の強化 ③社会生活に必要な基本的生活習慣を確立するための指導の充実 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな講演や体験活動により人生設計を考えさせる。 ②平日、放課後の補習を計画的、継続的に実施する。 ③インターンシップなどの活動により、基本的習慣、規範などを徹底する。 		
具体的な取組状況	進路講演会、進路別ガイダンス、進路講話（社会人、卒業生）、外部講師による模擬面接、県南職場研修事業、インターンシップとその事前・事後指導、職場見学、ふるさと企業紹介事業、職業別ガイダンス、合格体験発表会、長期休業中の補習 上記の計画的な取り組みの他、小論文や作文、面接指導を全職員が協力し指導している。		D
達成状況	平成29年1月16日現在の進路達成率は就職 100 %、進学 95 %と良好である。就職に関しては、県内は1回目で全員内定をもらい県外不合格だった生徒も10月中には内定をもらった。進学も看護系1名を残すだけとなり順調である。		
自己評価	(評価) A	(根拠) 全職員の協力のもと、講演会、ガイダンス等の進路行事がスムーズに行えた。県内就職に関しては、就職支援員との連携を密にし内定に到った。県外就職に関しては、企業訪問で情報収集ができたことが大きかった。進学に関しては、補習や面接指導の成果が出た。	C

- ↑ 評価基準 ↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

	(評価)	(意見)	
学校関係者評価と意見	A	<p>個々の進路希望を尊重しながら指導されているようで、今後も努力をお願いしたい。</p> <p>インターンシップ等の行事で難儀をかけている。地元には優良企業が多くあり、こうした企業の良さを伝えていくことも学校の仕事ではないか。県外の華やかさに惹かれていく生徒もいるだろうが、地元の企業も選択肢の一つとして考えさせてほしい。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策		<p>昨年度の卒業生で美容見習いで就職進学した生徒4人中3人が退職している。自分のイメージと現実の厳しさのギャップが大きかったと思われる。また、県外企業訪問で卒業生と話すことで、職場でのつらさや楽しさを聞くことができた。こういう情報を進路便りに載せることで在校生に還元できたと思う。これを継続していきたい。</p>	A

評価領域	研修部
------	-----

重点目標	校内外における研修の充実を図り職員の資質の向上に努める		P
現 状	本校には、中学までの学習内容が定着していないまま入学してくる生徒が少なくない。そのため入学時は中学の復習から始め、高校での各教科の学習を通して、社会人として通用する十分な知識や学力を身につけて卒業させたいと考えている。そこで、「より良い授業を行うためには、どうすればよいのか」ということを日々試行錯誤している。		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科の研修の計画と推進 ②校内の相互授業参観研修・授業研究会などの充実 ③校外で行われる各種研修の情報提供と参加促進 ④初任者研修等の円滑な運営 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科と協力し、校内研修を計画し実施する ②全職員で協力し、校内相互授業参観研修や授業研究会を実施する ③各種研修の情報等を提供し、参加を促す ④全職員で協力して実施する 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ①②校内相互授業参観研修の実施（6月、9月、11月の3回） 校内授業研究会の実施（11月） ③中高学習指導研究協議会への参加（9月；湯沢翔北、稲川中） 中学校授業研究会への参加（9月；雄勝中） ④初任者研修；校内研修の実施 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ①②校内相互授業参観研修 → 感想を用紙等に記入し、授業者へ伝え授業改善等に活かしてもらうようにした。 校内授業研究会 → 各分科会で出された、工夫が見られる点やより良い授業になるアイデア等を当日の全体会で共有した。 ③④研修記録や研修集録等で内容等について報告した。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) アンケートによれば、授業の成果に対する満足度が上昇していることから、よりわかりやすい授業を実践するための工夫が反映されてきていると考える。	C

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

	(評価)	(意見)	
学校関係者評価と意見	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の先生との連携がより重要になってきている。そのため、研修を校内だけでなく校外にも求めるという取り組みがなされている。 ・ 研修をすることは大事である。教員自身の力量が増えることに加えて子供も良くなる。学校内の協力と情報の共有は当然のことであり、これによって教員同士の輪が広がっていく。他校の指導方法にプラスして自分の力量をあげるなど、これからも研修に力を入れていってほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内で授業参観研修や授業研修会を実施していくこと、授業改善のための方法等を共有しあい、各自の授業に工夫を凝らしていくことを継続していく。 ・ 引き続き、各種研修の情報を提供し参加促進を図っていく。 	A

評価領域	保健・特別支援・教育相談部
------	---------------

重点目標	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくことのできる生徒を育てる。	P
現 状	保 健：保健室利用生徒は、1日平均1.5人ほど。心的要因での来室は少なく（特定の生徒に）なっている。 特別支援：サポートが必要と思われる生徒が在籍している。学習サポーターと連携を図りながら指導にあたっている。 教育相談：スクールカウンセラーによる面談を月1回実施し、保護者も相談に訪れている。担任による面談も適宜行われ、きめ細かい対応がされている。	
具体的な目標	①心身の健康を自己管理できる能力の育成 ②学習環境整備の推進 ③サポートを必要とする生徒の自己理解を深めさせるための指導の充実	
目標達成のための方策	①保健便りの発行、各学年部との連携推進と授業を大切にする指導 スクールカウンセラーとの連携、保健講話の実施 ②学校安全点検の実施、保健委員会による学習環境整備 ③クラス担任及び教科担任と学習サポーターとの情報共有と連携、職員研修会の実施	
具体的な取組状況	①保健便り毎月発行 保健講話（デートDV予防セミナー）実施 スクールカウンセラー面談8回実施（1月末現在） ②学校安全点検隔月実施 ③学習サポーターによる、様々な機会を捉えての指導の工夫 職員研修会の実施 校外研修への参加	
達成状況	①ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ②事務室の迅速な対応のおかげで、学習環境が整っている。 ③学習サポーター継続4年目となり、教科担任・学年部との連携は良好である。生徒数が少ないこともあり、個々の生徒に対する細やかなサポートが全職員によってなされている。	D



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	①②③において、目標に向かって活動がなされている。けがや病気以外で保健室を訪れる生徒もいるが、養護教諭や担任と話をすると、ほとんどの場合落ち着いて授業に戻ることができる。こうした職員の連携は非常に良好である。今後も生徒自身が心身の健康を保持・改善していけるよう支援していく必要がある。	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	保健室はこれからも生徒の心のオアシスであってほしい。現状では社会人となってから体を壊す人も少なくない。人間関係や食事のあり方など、その原因は様々だと感じる。誰にとっても体調管理は難しいが、高校生のうちから留意させてほしい。	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>高校生活は、社会人となるための準備期間ではあるが、生徒自身で健康を保持・改善していく意識を持たせることは簡単ではない。また高校生の心は、些細なことでも不安定になりがちである。今後も外部の力を活用しながら、職員全体できめ細やかに対応し、生徒の心身を育てていくことに努めたい。</p>	A
-----------------------	---	---

評価領域	図書・情報・視聴覚部
------	------------

重点目標	(1) 利用しやすい図書館づくり (2) 読書をとおり、思いやりの心を育み、品性の陶冶を図る。 (3) 情報・視聴覚機器の活用	P
現 状	図 書 (1) 県立図書館から生徒の興味を引くテーマの本を年4回、雄勝図書館からは毎月借りたり、アンケートを取り図書を購入し、PRもしたりしているが、利用者は少ない。 (2) 朝読書や読書感想文を実施している。 情・視 (3) 視聴覚教材を活用した授業が効率的に行われている。 (4) 業務系・学習系とも校内LANが機能している。	
具体的な目標	(1) ①図書館の環境整備 ②図書・図書編集委員会の活動の活性化 (2) 蔵書のPR活動の実施 (3) IT・視聴覚機器を活用した授業の支援	
目標達成のための方策	①人気図書等の情報収集 ②図書館報「小町草子」の発行 ③県立図書館・雄勝図書館との連携 ④朝読書や読書感想文などの実施 ⑤新しいIT・視聴覚機器の情報収集	
具体的な取組状況	(1) 今回秋田県教育関係職員互助会より図書の寄贈があり、蔵書が例年より増加し、県立図書館や雄勝図書館からの貸し出し回数も増えたため、生徒職員の利用が増えた。さらに新しく進路コーナーを設置した。また朝読書を実施、読書感想文コンクールに参加し、入賞した。 (2) 「小町草子」を不定期で発行し、ミニ書評やコメントを追加した。 (3) IT機器が新しくなり、職員が使いやすいようにシステムを構築し、ホームページをまめに更新するなどした。	
達成状況	・概ね達成できた。	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	A	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒数が激減したが、貸出冊数が増えた。 2 新しく進路コーナーを設置し、生徒に好評だった。 3 朝読書を実施し、読書感想文コンクールに応募、入賞できた。 4 ホームページの適宜更新と、IT機器使用に関する職員へのフォローを徹底できた。 	

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は興味のある分野は知りたいと思うので、様々なジャンルの本や、教員が薦める本を入れたらどうか。 ・県立図書館や雄勝図書館と連携しながら、本を読む機会を増やしたことは良い。そして感想文を書かせて、全国入賞もしている。また、雄勝図書館ももっと気軽に利用させてほしい。 	

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、県立図書館や雄勝図書館との連携を深めるとともに、様々なジャンルの本や良書を購入することで、生徒の興味関心を引き、情操教育の一環となるよう努力したい。 ・多くの生徒が図書館に足を運ぶように、図書委員会の活動をさらに活性化させ、ポスター掲示や「小町草子」などをおして新着図書の紹介や、購入希望図書アンケートを実施し、よりよい雄勝高校図書館にしていきたい。 	A
-----------------------	---	---